

保育実習における巡回訪問指導に関する研究  
—保育所における巡回訪問指導のアンケートの全体像を通して—

志濃原 亜 美  
丸 橋 聡 美

Study on supervision for nursery school practical training  
— Analysis of the questionnaire survey —

Ami Shinohara  
Satomi Maruhashi

## 1. はじめに

保育実習は、保育士養成校の学生が教科目で学んだ学問的知識と実習という実践の場での学びを融合させ、保育士としての専門性や能力を養う機会である。保育士養成における実習とは、学生が机上で学んだ理論をもとに観察し、体験的に学び、指導を受けることによって実践力を高め、保育士という専門職の理解と自覚を深めていく機能がある。そのようないわば養成の中核をなす保育実習について、様々な研究がなされてきた。保育実習の先行研究の代表的なものとしては、全国保育士養成協議会（2002）<sup>1)</sup>（2004）<sup>2)</sup>（2005）<sup>3)</sup>による一連の研究「効果的な保育実習のあり方に関する研究」やその集大成である『保育実習指導のミニマムスタンダード』がある。最近の保育実習に関する論文では、保育実習に関する学生の意識を調査した研究（土谷；2007、長谷部；2007）や実習の事後指導を対象とした研究（山田ら；2011）、保育実習の評価に関する研究（佐野；2008）、保育実習指導の内容に関する研究（朝木ら；2014、吉島ら；2014）などがある。実習に関する研究は「独立した対象領域として概念と固有の専門文化を形成しており、保育実習指導の科学化と理論化を志向する」<sup>4)</sup>立場で方法論等が展開されている。

保育実習指導には、間接的には実習担当教員による実習指導計画作成、直接的には、事前指導、巡回指導（訪問指導ともいうが、本稿では巡回訪問指導で統一する）、事後指導、評価面談で構成されている。保育実習指導は、基本的には学内で行われるが、唯一実習先で行われる指導に巡回訪問指導がある。

保育士養成校の学生のほとんどが、子どもが好きで保育士を目指し、養成校等で学びを深めるが、実際の保育の現場での実習は、思い描いていた保育士の仕事とのギャップがあるという者や自己の力量不足に悩む者もあり、実習中に戸惑ったり、悩んだりする。実習中の巡回訪問指導は、「実習しているその場で具体的に実習生が抱えている課題を確認し、課題の達成に困難を感じている場合にはその困難さを克服するための力が発揮できるように具体的または直接的に実習生を支える機会」<sup>5)</sup>であり、その内容からスーパービジョンの役割を果たしているといえよう。

スーパービジョンとは、対人援助職に就く者が「価値観・知識・技術を継続して学び、元からそなわっている資質をさらに発展させていくための機会」<sup>6)</sup>として重要なものであり、ソーシャルワーカー・スーパービジョンとして、全米ソーシャルワーカー協会（NASW）は次のように定義している。ワーカーが「実践における責任主体として、技術・知識・態度・倫理的基準の発展を促進していくことを目的とするところのスーパーバイザーとスーパーバイザーの関係性である」。

保育実習におけるスーパービジョンに関する先行研究は、大塚ら（2012）<sup>7)</sup>（2014）<sup>8)</sup>の研究がある。大塚らは、保育実習（施設実習）におけるスーパービジョン体制についての課題を明示し、提言を行っている。その中で大塚らは、保育実習（施設）に焦点をあてたことについて、施設実習の学生への負担が大きい実習であること、ソーシャルワーカーの機能を持つことになった保育士について今後、社会福祉士と同様の実習体制が求められるのではないかと2点を挙げている。

では、スーパービジョンという考えは、どのようにして生まれたのだろうか。アメリカにおいて

ソーシャルワークスーパービジョンが組織的なプロセスとして定義されたのは、1874年に第1回慈善矯正会議 (National Conference of Charities and Correction) で取り上げられたことによる<sup>9)</sup>といわれている。アメリカでは、教育分野においても教師の不適合性を証明するための調査と訪問という名目ではあったが、スーパービジョンが初の試みとして行われ、その後公的に1654年、公教育の代表者によるスーパービジョン局が公認された<sup>10)</sup>、など教育分野でのスーパービジョンの歴史のほうが古いとされている。また、精神分析の領域では、スーパービジョンは、フロイトによって1902年に正式に開始された<sup>11)</sup>。

ソーシャルワークに限らず、対人援助の領域においては、対象となる利用者が一人ひとり違いその援助に答えがない。そのことは、保育所実習であっても施設実習であっても同様であるだろう。また、保育士資格は、保育所の他、多くの児童福祉施設で必置の資格である。保育士の専門性を高めるためには、保育所でも施設でも通用する力量 (コンピテンシー) が必要となる。大塚らが指摘するように、施設実習は学生にとっても未知の部分が多く、迷いや不安も大きいのは、事実である。しかし、スーパービジョンの機能を考えれば、保育所であっても福祉施設の実習であっても同様の対応が求められるのではないだろうか。福山 (2007) は、「スーパービジョンとは、専門職の業務全般の遂行をバックアップするための職場の確認作業である」<sup>12)</sup>としている。これを実習生に当てはめると「実習生の実習全般の課題を確認し、よりよい実習を行うことができるようフォローアップする作業」ということになるだろう。

本研究では、実習中の唯一の指導の場である巡回指導に焦点をあて、学生にとっての巡回指導の意義をスーパービジョンの視点から明らかにしておくことが目的であり、本稿では、保育士養成校の学生に行ったアンケート結果を分析して、保育士養成校での巡回訪問指導の役割と意義を明確にするとともに学生にとって有効な学びの場となる巡回訪問指導の在り方について検討する第一段階である。今回は特に、保育所での実習に焦点を絞って巡回訪問指導の全体像を分析する。

## 2. 方法

対象：保育士養成校A短期大学の保育所実習Ⅱ終了者 253名中、回答者 235名 (回収率 92.9%)

アンケート実施時期：2014年7月10日、9月24日

倫理的配慮：対象学生に対し、①データは本研究以外に使用しないこと②得られたデータについては個人情報 の 厳 重 な 管 理 と 適 切 な 処 理 を 行 う こ と 等 に つ い て、書 面 と 口 頭 で 説 明 し、協力を求めた。

## 3. 結果

A短期大学では、近隣の実習先では訪問による巡回指導、地方などの郷里での実習は電話巡回指導を行っている。本調査回収時は、13名が郷里での実習、222名が訪問での巡回指導を受けた。巡

回教員数は、当該学生の担当学科 16 名であり、それぞれが、平均 14 ～ 16 箇所の巡回訪問指導を行った。巡回訪問指導の日程はそれぞれの教員が事前に園に電話にて問い合わせ決めている。

〈訪問時期〉指導教員の訪問について「事前に知らされていた」37.4%、「知らされていない」61.2%であった（図1）。巡回訪問時期については、訪問してほしいと感じたころに来たに対し「はい」70.2%、「いいえ」23.4%であった（図2）。また、巡回訪問してほしい時期は、7日目という回答が最も多く、次いで5日目、8日目であった（図3）。責任実習の前に訪問したかについては、「はい」64.7%、「いいえ」29.8%であった（図4）。

指導教員の訪問を巡回日前に知らされていたか

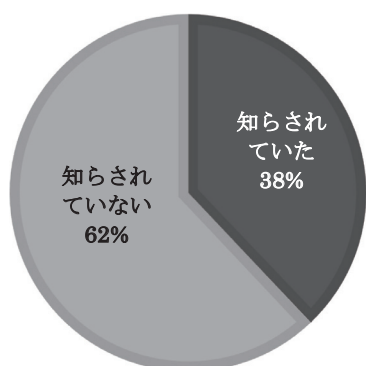


図 1

指導教員は訪問してほしいと感じた頃に来たか

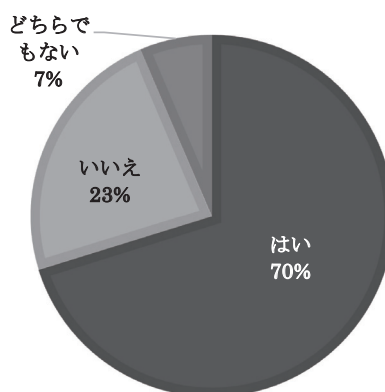


図 2

指導教員にいつ頃訪問してほしいか

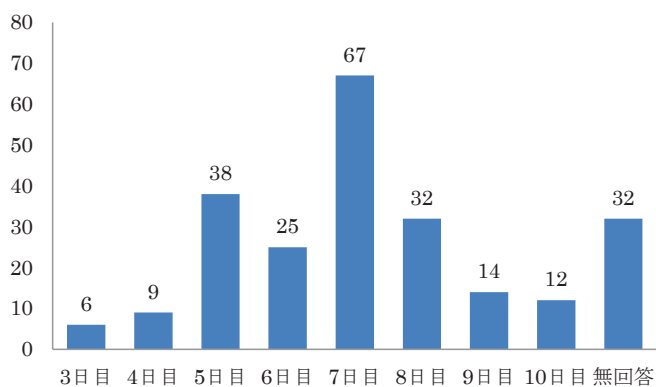


図 3

指導教員は責任実習前に訪問しましたか

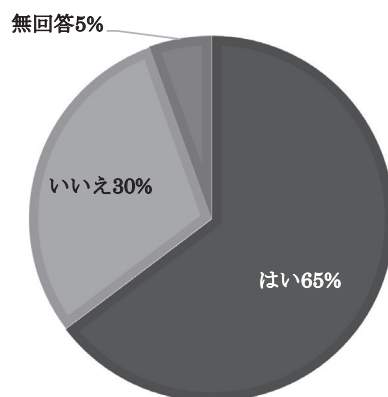


図 4

〈巡回指導前の気持ちと巡回指導後の気持ちの変化〉 巡回指導前の気持ちとして、「実習が早く終わって欲しい」38.2%、「実習に行きたくない」8.9%、「楽しい」51.9%、「緊張していた」51.4%、「不安である」54.9%（複数回答）であり（図5-1）、巡回指導後は、「何も変わらない」13.2%、「もう一度来てほしい」12.8%、「先生に会えてうれしかった」42.6%、「悩みが減った」16.6%、「意欲が湧いた」24.7%、「実習に対しての迷いが減った」13.6%、「安心感を得ることができた」51.1%、「不安が減少した」38.3%（複数回答）であった（図5-2）。話をすることで気持ちが楽になったかについて「はい」77.4%、「いいえ」8.9%という結果もでている（図6）。さらに悩みが解決できたについて「はい」58.7%、「いいえ」20.9%であった（図7）。

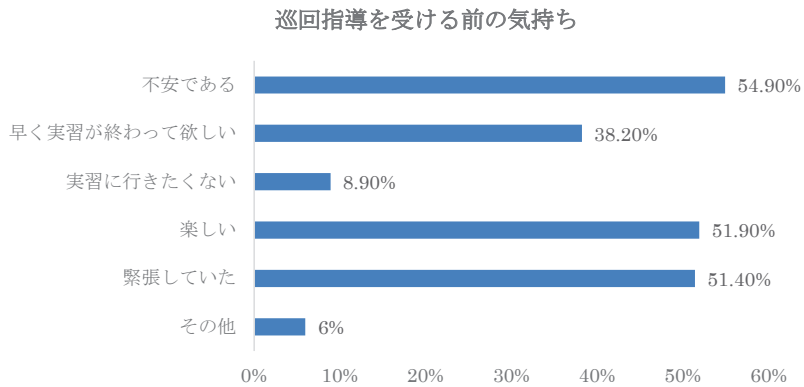


図5-1

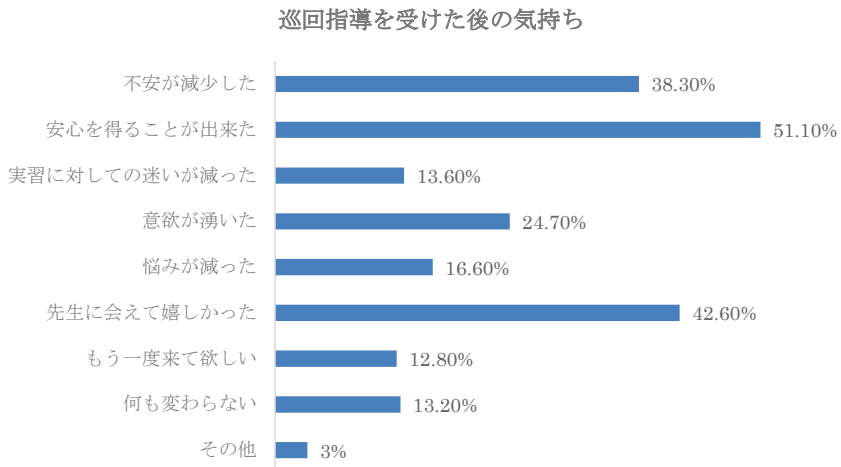


図5-2

話をすることで気持ちが楽になったか

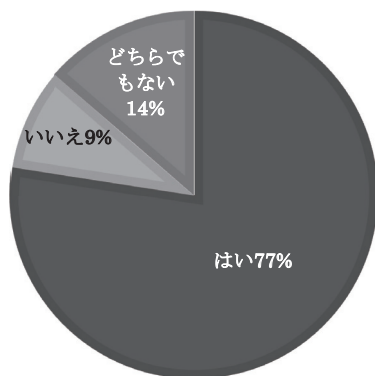


図 6

解決することはできたか

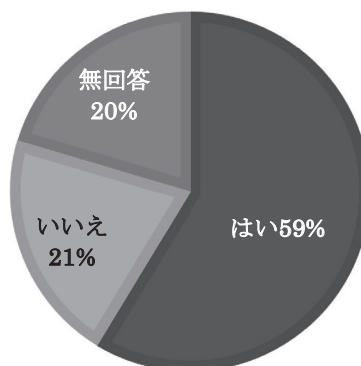


図 7

〈面談形態〉面談場所については、別室が最も多く 42.1%、次いで廊下 18.3%、職員室等 11.1%であった（図 8）。面談時の形態は、二者面談 72.8%、三者面談 14%であった。面談時間は、10 分が最も多く 20.4%であり、次いで 5分 14.9%、15分 14.9%、20分 13.6%であり、短いもので 1分、長いもので 60分であった（図 9）。

面談場所

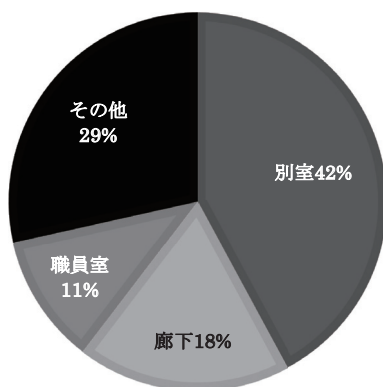


図 8

面談時間

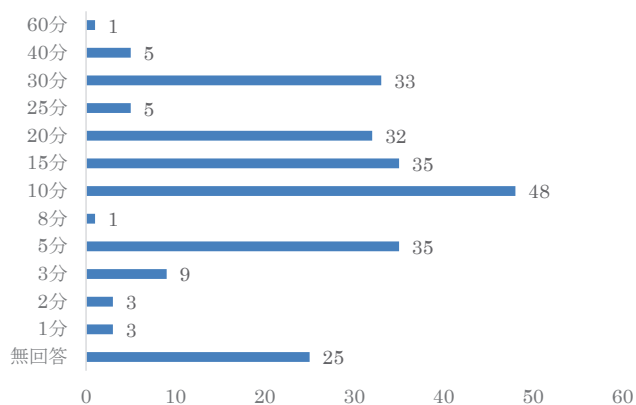


図 9

〈巡回訪問の意義の理解〉実習生の困っていることについて、代弁や伝える方法を教えてくれたかについて「はい」55.3%、「いいえ」30.6%であった（図10）。巡回訪問の意義を理解しているかについては、「わかる」17.9%、「なんとなくわかる」65.1%、「わからない」13.6%であった（図11）。

実習生の代弁や伝える方法を教えてくれたか

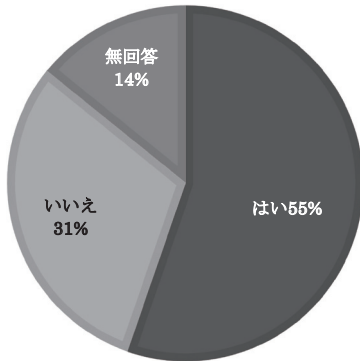


図 10

巡回指導の意義を理解していますか

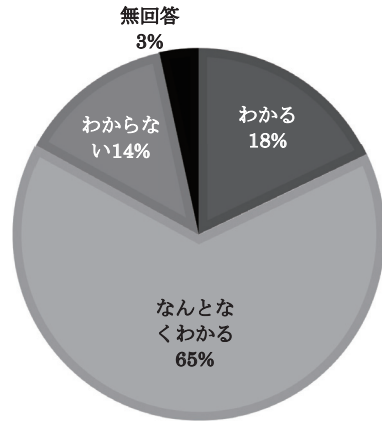


図 11

#### 4. 考察と課題

「指定保育士養成施設の指定及び運営の基準について」（以下、局長通知）には、「実習指導者は、実習期間中に少なくとも1回以上実習施設を訪問して学生指導をすること」と明記されている。2010（平成22）年に改正される前の局長通知では、「教科目の教授内容」の保育実習の保育実習指導の「内容」において「実習中に巡回指導を行い、実習施設の実習指導担当者との連携のもとに、実習生へのスーパービジョンを行う」と明記されていた。このことは、実習巡回時に実習教育スーパービジョンの形式での指導が保育実習の内容の一部となっていると理解できる。しかし、2010（平成22年）の改正を機に数科目の教科目の変更とともに保育実習は、それ以前の保育実習指導と保育実習を合わせて5単位から保育実習指導1単位、保育実習4単位となり、保育実習指導の内容からも巡回指導についての項目自体がなくなった。局長通知においては、実習中の巡回指導は義務付けているものの保育実習指導の内容とはしていないといえる。多くの研究や実践から明らかのように事前指導で確認したとしても実習中に学生は理論と実践の狭間で多くの不安やジレンマを体験する。その不安やジレンマを緩和し、より学びの深い実習にするためにはスーパービジョンという方法は適切であるといえるだろう。

今回のアンケートの結果から、巡回訪問指導によって、実習生はそれ以前に感じていた不安や迷いが減ったり、安心感を得て、意欲的になったりする姿が浮き彫りとなった。また、気持ちが楽になったり、問題が解決したなど実習生の力を引き出す効果もあることが明らかになった。アンケート結果からも明らかなように、巡回訪問指導の時期や方法、面談場所、時間は、様々であり、十分に実習生のニーズを満たしていないこともある。また、実習生自身が巡回訪問の意義を十分に理解していない可能性も示唆された。実習生を支え、実習生の抱えている問題や課題を確認して解決の援助をし、さらなる学習効果を高めるためには、具体的にどのような巡回訪問指導が望ましいのか、実習前後の気持ちの変化に特に着目してさらに分析していくことが今後の課題である。

本論文は、保育士養成協議会第54回研究大会の「保育所実習における巡回訪問指導の研究1」の発表に加筆したものである。

\*本研究は平成27年度秋草学園短期大学奨励研究の一環である

## 参考文献

- 長谷部比呂美 (2007) 「保育実習に関する学生の意識について—実習不安を中心として—」『淑徳短期大学紀要 46』
- 佐野美奈 (2008) 「保育実習（保育実習Ⅰ）における実習評価に関する一考察—現場評価と自己評価の比較分析を通して」『大阪樟蔭女子大学人間科学研究紀要 7』
- 吉島紀江、川北典子 (2014) 「保育実習指導における教授内容の検討：学生の自己評価により」『保育研究 42』
- 朝木徹、大谷朝、井邑智哉 (2014) 『精華女子短期大学紀要 40』保育者養成校における保育実習指導内容の検討（3）学生自己評価と実習園評価の比較に基づく段階的自己評価指数（試案）の提言」
- 山田朋子・那須信樹・森田真紀子 (2011) 「保育士の質向上につながる評価票ベースの継続的実習指導」『中村学園大学・中村学園短期大学部研究紀要第43号』

## 脚注

- 1) 全国保育士養成協議会編 (2002) 「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅰ—保育実習の実態調査から—」『保育士養成資料集第36号』
- 2) 全国保育士養成協議会編 (2004) 「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅱ—保育実習指導のミニマムスタンダード確立に向けて—」『保育士養成資料集第40号』
- 3) 全国保育士養成協議会編 (2005) 「効果的な保育実習のあり方に関する研究Ⅲ—保育実習のミニマムスタンダード—」『保育士養成資料集第42号』



- 4) 全国保育士養成協議会編 (2007) 『保育実習指導のミニマムスタンダード』 北大路書房、p 2
- 5) 全国保育士養成協議会編 (2007) 『保育実習指導のミニマムスタンダード』 北大路書房、p 131
- 6) 一般社団法人 日本社会福祉教育学校連盟監修 (2015) 『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』 中央法規、p 3
- 7) 大塚良一、田中浩二、寺田清美他 (2012) 「保育実習 (施設実習) に関するスーパービジョン体制の課題と提言: 保育を学ぶ学生の児童福祉施設に対する意識調査結果から」 『東京成徳短期大学紀要 45』
- 8) 大塚良一、田中浩二、福山多江子、田中利明 (2014) 「保育実習 (施設実習) に関するスーパービジョン体制の課題と提言: 保育を学ぶ学生の児童福祉施設に対する意識調査を基に」 『東京成徳短期大学紀要 47』
- 9) 前掲 6、p 209
- 10) 前掲 6、p 214
- 11) メアリー・ゲイル・フロイリー=オーディジョアン・E・サーナット著 最上多美子・亀島信也監訳 (2010) 『新しいスーパービジョン関係』 福村出版 (原著 2001)
- 12) 福山和女 (2005) 『ソーシャルワークのスーパービジョン』 ミネルヴァ書房、p 198

